

農林課コーナー

広報つしま5月号に掲載しましたヒトツバタゴの記事に関連して、大阪城公園のヒトツバタゴについて「質問をいただきました。」
次のおり回答いたしましたので紹介します。



質問：手紙本文より

平成3年4月に大阪城公園に行った折、天守閣下広場で見事に開花したヒトツバタゴを目にしたので近くまで行き観察しました。

驚いたことに、幹は対馬で見かけるものと同じでしたが、花がかなり大きく葉は桜の葉のようでした。あの木は一体何なのか教えてください。

回答：市農林課

ヒトツバタゴの自然分布は、岐阜県、長野県を中心とした区域と、隠岐島、対馬、朝鮮、台湾に隔離分布している依存種と考えられており、それぞれの地方で特有の形態へ分化してきています。

現在国内で一般的に流通しているヒトツバタゴは、本州

産の苗木から養成されているものが大半であるらしく、大阪城公園にあつたものはその苗木が生長したものではありませんかと考えられます。

そのため、対馬に自生しているものと少し違って見えたのではないかと思われます。

また、ヒトツバタゴの仲間「アメリカヒトツバタゴ」という国内でも見られる外国産ものがありましたので、念のため長崎県の樹木医の方を通じ大阪城公園のヒトツバタゴを確認していただいたところ、日本産の「ヒトツバタゴ」で間違いのないとの回答をいただいております。

記事に関するご意見は

市農林課まで

0920(53)6111

イノシシ対策に関するお知らせ(第1回)



今月より3回にわたり、近年対馬島内で生息数が激増している『イノシシ』に関する記事を連載します。

第1回目となる今回は『イノシシの特徴』をお知らせします。

【分類】

イノシシは、ほ乳類の偶蹄目イノシシ科イノシシ属に分類され、家畜ブタの祖先種にあたります。分類学的には、家畜ブタと同一種で国内にはニホンイノシシ、リュウキュウイノシシの2亜種が存在します。

【分布】

ニホンイノシシは西日本を中心に本州・四国・九州に広く分布します。

対馬に生息するイノシシもこのニホンイノシシであることが確認されています。

【生態】

イノシシは本来昼行性ですが、人の活動により夜行性を示すようになってきました。1日の活動では、全体の約3分の2を休息に、残り3分の1を採食と移動に費やしています。

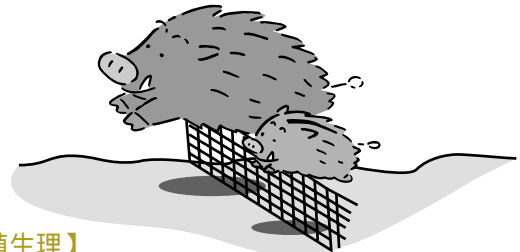
【行動】

オスは単独で行動しますが、メスは基本的に子や姉妹と5~10頭の群れで行動する母系集団です。オスは12月から3月にかけての交尾期に発情したメスを捜して活発に歩き回ります。

【身体能力】

イノシシは助走なしで1.2m以上の柵を飛び越えることができます。よじ登ることのできる柵であれば2mの高さも乗り越えます。

また一方、地面から20cmの隙間があれば、成獣でも地面を掘らずにくぐり抜けることができます。



【繁殖生理】

ふつうイノシシは生後1年半で性成熟に達し交尾可能となりますが、野生化ブタとの交雑個体では1歳以前に性成熟するものもあります。春に生まれ個体は翌々年の春に出産するのがふつうですが、翌年の秋に出産するものもいます。

繁殖率は高く、性成熟したメスはほぼ毎年春に出産します。

記事に関するご意見は 市農林課有害鳥獣対策班まで 0920(53)6111